

2018.7.26 金子

「職業奉仕」という言葉の問題 (No.04)

今回は、ロータリーの標語

『超我の奉仕』 (Service Above Self)

『最もよく奉仕する者、最も多く報いられる』

(One Profits Most Who Serves Best)

について、お話ししました。

この標語は、ロータリーの「思想」を良く表していると言われる “ 決議 23-34 号 ” に明文化されています。職業奉仕を勉強する上で、必ず理解しなさいといわれる決議文です。

その第1項目のみ引用してみますと、以下の様になっています。

“ ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求 と 義務 およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕—「超我の奉仕」—の哲学であり、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践理論の原則に基づくものである。”

ここで、標語を理解するには、先ず『ロータリー哲学の骨格』となる『ロータリー運動は倫理運動』であることを理解しなければなりません。その中でも、これがロータリーだといわれているのが『職業奉仕』です。『ロータリーのロータリーたる所以は、職業奉仕の実践にあり』と言われていきます。

まず、『ロータリー運動は倫理運動である』の『倫理』という言葉ですが、倫理とは『人が正しく歩む道』です。人を泣かせるような行為をしてはいけない、人を欺いてもいけない、非人道的、非社会的行為をしてはいけない、世のため人のために尽くしなさい、というのが『倫理』の教えです。

『職業』とはお金を儲けるための手段です。私たちが生きていくための所得を得る手段であり、これは『自分のためのもの』です。一方、『奉仕』とは世のため人のためのものであって、すなわち自分以外の『人のためのもの』です。このように全く正反対の2つの言葉が1つになって『職業奉仕』といっているために非常に解かりにくいのです。この言葉は『完全なるロータリー用語』であり、一般の辞書には載っていません。

職業奉仕とは、職業倫理の運動です。これが先に述べた『ロータリー運動は倫理運動である』という言葉の意味です。すなわち『ロータリー運

動は職業倫理を追及する運動である』ということです。ロータリーにとって職業倫理は基本的な考え方であり、ロータリーの哲学でもあります。

ロータリーは奉仕の基礎を職業倫理に置き、自分の為のものである『職業の心』も、自分以外の人の為のものである『奉仕の心』も一つの心だと考えます。そのため一つの心を持って職業を営み、かつ奉仕をすると説いています。ですからロータリーにおいて倫理に反する儲けは存在しないし、存在してはいけないのです。

ロータリーの例会は食事をするために出席するものではありません。卓話を聞くために出席し、卓話を聞いて職業倫理を学ぶのです。我々は職業人の集まりです。例会に出席することにより、職業人同士の体験談、知識、知恵等を耳にし、職業倫理を互いに学びあうのです。

宇部ロータリーで言われてい『夜霧理論』を思い出してください。卓話は聞いては忘れ、聞いては忘れてしまうものなのですが、しかし何度も何度も聞き、そして忘れていくうちに、次第に自分自身が磨かれ、ロータリーの『職業倫理』が身に付いていくのです。そのため、ロータリーは毎週例会を開いているのです。クリスチャンが毎週、日曜日に教会

に行って神に祈り、心を洗うのと同じように、ロータリーは必ず毎週 1 回の例会に出席し、お互いに心を磨きあうのです。

まず、ロータリアン自身の心を磨かなければ、ロータリアン自身の倫理を高めなければ、世の中に倫理を提唱することはできません。従って、ロータリーは毎週例会があるのです。

これが単なる寄付団体や慈善団体ならば、毎週例会を開く必要はないと思います。

これで会長の時間を終わります。